

# 第21回 盛岡市民演劇賞 観客賞投票結果



投票受付期間: 令和4年4月1日(土) 10:00~令和4年7月9日(日) 21:30まで

投票総数: 27票(うち有効票数27票)

公演団体	公演名	獲得票数	推薦理由
ボーイズドレッシング	ハーフさんたち	6票	<p>◇すべてが完璧</p> <p>◇大災害や、世を震撼させた事件により、理不尽な理由で命を奪われた方々がいる事実を題材として扱っている場合、最も気になるのは、その作品が、言葉や失うほどの体験をした当事者たちの無念を昇華するためのものなのか、それとも、当事者から遠い人たちがもやもやと抱き続けていた感傷を解消するための商品なのかである。</p> <p>例えば、震災を題材とした作品は様々なところで作られているが、実は思い出すことさえ辛い当事者たちがそれらの作品を見るのは意外に少ないのではないだろうか。</p> <p>そのような題材に注目し、推すのは、むしろ当事者にはならなかったことで妙な罪悪感を感じている現地から遠い場の人々であり、当事者が本当に必要としているのは、むしろ自分たちの現場とは違う場所や時代で同じような目にあつた人々がどう生きたのか、ひとつの点ではなく、多くの点を繋いだ線をもつ視点であるように思う。</p> <p>これこそが当事者の本音だろうという震災のエピソードが小さく数箇所挟まれてはいるが、この作品は震災を題材とした物語ではない。</p> <p>しかしながら、様々な理由で命を奪われた人々、残された人々に響くのは、このような、それでも生きていく人たちと、形は変われども、それでも消えてはいないと思える、かつては生きていた人たちの物語ではないだろうか。</p> <p>毎年、この賞に投票していたある方が、余命を宣告された後、この作品を見て、亡くなる前に「私もこれからも劇場にいるから」と言つたと聞いた。</p> <p>彼女にとっての希望となった作品である。</p> <p>彼女が入れることができなかつた一票を重ねる想いで、この作品を推したい。</p> <p>◇中身が濃くてポップで、今までのボーイズドレッシング作品の中で一番わかりやすくもあつた。その新境地に。</p> <p>◇作品を鑑賞してから何かは明確に言語化できないが決定的に自分の中の何かが変わつた、もう戻れないという感覚がどれくらいあるか、という個人的な思いと、演技演出をはじめとした総合的な創造成果物のクオリティというある程度客観的な物差しで判断しました。生と死のあわいにあるかのような主人公の女性のアパート、そこに入りする女たちもまた、身体も心もそのような精神世界。今思い返してもレイヤーがあり過ぎて整理がつかない。でもその混濁した混沌とした世界観にぐさぐさと貫かれた、骨太な救済、しかも括弧付きの救済のような物語に胸が震えました。演出とスタッフワークのコラボレーションがあつてこそその上演成果だろうと思つた。演劇、そしてあの空間でしか存在し得ないというところで。</p> <p>◇役者の演技の迫力とストーリーの徐々に明らかになる展開にワクワクしながら見ることができました。</p> <p>◇ポップな雰囲気から徐々に重い雰囲気になっていく過程が素晴らしかった。また、舞台裏ツアーなど様々な企画があり複数回見に行きたくなる仕組みもあつた。</p>
もりげき八時の芝居小屋第178回 片目で立体視プロデュース 片目で立体視みつ目	マリエ考	3票	<p>◇「まりえ」という人を各作品ごと違う視点から解釈することが出来たのが非常に芝居として面白かつたから。</p> <p>◇女性の話というルールで構成されるこの舞台は、自身も女性である私にとってとても興味深かつた。</p> <p>役者が全員適所に配役されているというのもうだが、女性であるが故の薄らとした蟬りを持つ人間であれば、引き込まれるような不思議な引力のある芝居だった。</p> <p>作者が本当にやりたいことを表現しているのを感じたが、決してひとりよがりではなく、内容の理解は難しくとも広く心に浸透するような何かがあつた。</p> <p>こういったお芝居は、もっと必要とされて良いと思つた為、選定理由とする。</p> <p>◇公演全体ではなく、この中の1作品『Lovable Sustainability』への評価です。</p> <p>川の流るに漂う／抗う世代がやがて手を繋いでどんぶらこ海を目指す…かのような、寓意と含蓄のある脚本。スリリングな2人芝居。嵯峨瞳さんはのびのびとトリッキーな演技を見せ、それを受ける丹波ともこさんが堂々たる安定感でした。お2人のような高いレベルはなかなか観ることがないと思つます。今後もご活躍に期待します。</p>
架空の劇団	風流怪談 地獄太夫色懺悔 -六条御息所に引導を渡すこと-	2票	<p>◇観た対象作品が少ないので(期間内には天体望遠鏡やもしよこむもよかつたのですが盛岡ではなかつたですね。残念。)多分に偏っていますが、その中で、すべてにおいてインパクトは抜けていたと思つます。彼岸と此岸の交感を描いたら、さすがです。今回は(も)此岸よりは亡者どもの宴感が強かつたのですが、中でも印象に残つたのは、塚本千鈴さんでした。あの舞台の中でも、しっかりと立っていた。福土さんの一休も素敵でした。</p> <p>ハーフさんたちも興味深く拝見しました。こちらも、亡者どもの宴か(笑)。</p> <p>イーハートブからやってきた三つのお話。気のいい火山弾の、杉本さんのペゴ石、スマッシュヒットでした。</p> <p>◇初めて観た演劇がこの作品で、インパクトが強かつたのと、これきっかけで、演劇好きになりました。</p> <p>良い作品でした。</p>
ライター・ノーツ	すずめちゃんと	2票	<p>◇ひたすら全てのクオリティが高く、またテーマへの解像度も高かつた。</p> <p>特に舞台美術がとてもよかつた。</p> <p>見ている最中に具合が悪くなるような本物の息苦しさを感ぜられ、他では得られない感覚になる事ができた。暗く繊細な内容だったため賛否は別れるかもしれないけれど個人的には好きでした。すずめちゃん以外が仮面をつけてすずめちゃんと踊る演出は、子供の頃に見てたらトラウマになつてそうで、すごく好きでした。</p> <p>充分面白かつたけれど脚本はもっともっと突き詰められそうだなと思つました。</p> <p>次回公演も楽しみです。</p> <p>◇全参加者がこの脚本や演出を信頼して創作に取り組んでいる姿勢が押し付けがましくなく舞台から伝わつてきたため。</p>

演劇ユニットせのび	WEEK1タウン	2票	◇等身大の人間の織り成した物語のオチがあまりに好みだった。舞台美術も素敵だった。 ◇非常に演劇的だったことを評価したい。人物が入れ替わったり、時間と空間が動いたり、それらが示すすべてを理解できたわけではないが、考える余地のあることが楽しかった。発信者側に明確なビジョンがあることは伝わって来た。ただし、幕切れは好みではない。オチも大団円もなくてもよいが、なんかこう、不完全燃焼。
もりげき八時の芝居小屋第177回 劇団ちりぢり	午後9時半には外にいたい -盛岡劇場の退館時間を守る 大人になるための40分-	2票	◇あらゆるものがぎゅっと凝縮された非常に贅沢な時間でした。ゲラゲラ笑うところもあれば、じーんとくるところもあり、主宰がずっと変わらずに演劇が大好きだということがひしひしと伝わってきました。シンプルな舞台なのに、中身がすごく濃くて深く、終わった後の余韻を噛み締める時間も楽しめました！ ◇1番夢中になって観てしまった。
冬芽 Theatre Weeks week1 海原の蛙ども	海原の蛙ども	2票	◇スタッフワークがとても良かった。 開場全体が海の中であるかの様に感じる舞台作り、照明だったと思ったため。 ◇劇場に入ってから終演するまで、特にスタッフワークがバチツとはまっていた。 浜藤ホールの空間を埋め尽くす舞台美術は圧巻で、まるで自分が海の中に入っているような感覚さえも覚えた。 旗揚げということで、今後どんなものを見せてくれるのか期待を込めてこの作品に投票しました。
劇団しばいぬ	表に出ろいっ！	2票	◇迫真迫る演技、演劇ならではの構成が良かった。オリジナルが観たいと思った。 ◇難しいと思われる野田秀樹さんの戯曲にチャレンジされていて 初めから 終わりまで テンションを保ち 演じ切ったのは、こじんまりと纏まりがちな昨今の演劇界に於いて 素晴らしい功績だと思います。今後の「しばいぬ」さんに 大いに期待しています。どうぞ これからも チャレンジを続けてください。
もりげき八時の芝居小屋第180回 演劇集団九月とアウラー × 盛岡アクションクラブ	TAKE ACTION-変身-	2票	◇第一に、もりおかアクションクラブが数年来培ってきたアクションの技術性及び本作の話題性を高く評価すべきである。狭いステージながらスペクタクルな殺陣を披露する画期的な作品であり、アクターひとりひとりがアクロバティックに動いている。また、この団体にはキャストにもいる通り小・中学生が参加しており、すでにアクターの後継人材が育まれている。メンバーは演劇業界に長年身を置いているわけではないが、役者としての実力はアクター経験を活かした秀逸なもので、体の動きなど一般的な演劇人に不足しがちな要素も補っていた。 次に、八月とアウラーが数十年来培ってきた演出力を無視してはならない。浅沼氏による照明操作は他の演劇人が模倣できるものとは言い難く、エンターテイメントとしてのヒーローショーをそれたるものとして成立させるのに十二分なものであった。また、キャストには顔出しの出演、スーツアクターを兼任する者も多く、裏で衣装及びメイクが並々ならぬ努力を行っていたことは間違いない。 以上の理由から、本作は当二団体に携わったメンバーの経験と努力の結晶であり、今後同様の作品が本劇場に現れがたく、多大な評価を行うべきだ。 ◇八芝のコンセプトからは少し逸脱していましたが、良い企画でした。演劇がショーかと問われれば…今回は演劇であったと私は思っています。 内容もさることながら、コラボする団体各々の客層をきちんと視野に入れて製作されており、今後の盛岡演劇界を明るくする試みであったと感じています。(平たく言えば、お客さんをたくさん呼べる公演であり、興行として正解ということです) プロデューサー側として学ばねばならない要素がたくさん詰まっていて、劇団制作のお手本となる公演でした。
劇団ゼミナール	夢枕に添い寝	1票	◇最後の公演でしたのでとても感動しました。
劇団赤い風	北帰行	1票	◇初めてのアングラ作品で衝撃を受けた
カンザスハリケーン	52ヘルツの鯨	1票	◇エモさの塊でした。好きです！ 演者の体当たりな演技も好き。素人なのでどこがどうか小難しい事は分かりませんが、とにかく良かったです！
寺山修司演劇祭実行委員会 プロデュース	一人芝居「新宿お七-ロング・グッドバイ-」 おきあんど&佐々木英明 詩のリーディング&トーク 『書を捨てよ、町に出よう』を語る	1票	◇4日お七役の町平さんの素晴らしい才能を観ました。切実に世界に羽ばたいていただきたい方です。

～投票へのご協力、ありがとうございました～